

真保正子さん ロサンゼルスオリンピックで活躍

第10回オリンピック大会が昭和7年（1932年）7月アメリカロサンゼルスで行われた時、本校の卒業生真保正子さんが陸上競技のやり投げに出場し、4位入賞の偉業を成し遂げました。

真保正子さんは平成元年11月の本校文化講演会の席で生い立ちやオリンピック出場について次のように語っています。

「私は大正2年上田市新田生まれで、太郎山の麓に生まれた私は小さい頃から野や山や川を駆け回り思い切って遊び回りました。上田高等女学校に大正15年に入学し、4年生の時には身長163.2cmもありました。昭和5年に卒業して日本女子体育専門学校（現日本女子体育大学）に進学しました。その年の明治神宮大会では人見絹枝さんと跳躍で争うつもりの出場でしたが、大選手の前にポッと出の田舎者は足がすくむほど圧倒されて人見さんの半分ほどの3m台しか飛べませんでした。がっかりしている時小学校時代の恩師からやり投げをやった方がいいよとアドバイスされ、精進の甲斐あって34m台を投げられるようになり、人見さんの日本記録を更新しました。オリンピック予選では38m20を出し、世界記録に19cmと迫る記録で代表の座を得ました。今では太平洋は飛行機で一またぎですが、当時は船で2週間以上かかり、船の上で私はやりを紐をつけて海に投げるという練習を編み出し、周りの船員や選手達は『あのイルカねえ』などと興奮し応援してくれました。」（講演記録より）



昭和7年8月2日の信毎夕刊は1面トップに「陸上の華・真保嬢 誇らかに挙ぐ第一点」と掲げ、さらに「真保嬢左投げの一槍 みごと四等入賞 我が最初の得点 記録は39m07」と大々的に報じました。

オリンピック後、昭和7年9月には郷里上田に凱旋。市長はじめ本校全校職員生徒ほか5千人が上田駅にて歓迎しました

翌8年にはロス五輪三段跳び金メダルの南部忠平さんとともに母校を訪れ、南部さんは午前全校生徒に講演、午後本校陸上部生徒に懇切な実地指導を行いました。

その後、真保さんは大阪で教員や府の保健体育科に勤務し、昭和60年には勲五等宝冠章を受けられました。

出典：本校百年誌より